



# とらすと通信

— 営業のご報告12月号 —

# 2025

株主さまと当社をつなぐ、スマートフォンアプリ



<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/kabunushi-passport>  
ぜひアプリをダウンロードしてご利用ください。

特別キャンペーン  
実施予定



託された未来をひらく



三井住友トラストグループ<sup>®</sup>  
SUMITOMO MITSUI TRUST GROUP

# トップメッセージ

株主の皆さんには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
「とらすと通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

取締役執行役社長 (CEO)

高倉 透



## 1. 株主の皆さんへ

現在、私たちを取り巻く環境は、かつてないほど変化と不確実性に満ちています。国内では、物価高や人手不足、自然災害の頻発などが国民生活や企業活動に大きな影響を与えています。海外では、地政学的な緊張や経済の不確実性など、様々な要因が複雑に絡み合い、未来に対する懸念を深めています。このような状況だからこそ、社会的価値創出と経済的価値創出の両立を経営の根幹とする私たち信

託グループは、社会やお客さまの課題解決を通じた持続的な成長を最優先に考えて行動し、「託された未来をひらく」というパーサスのとおり、未来を切りひらいてまいります。

株主の皆さんにおかれましては、今後とも格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 2. 業績の振り返りと株主還元について

当中間期の実質業務純益は、円金利上昇に伴う、実質的な資金関連の損益<sup>(\*)</sup>の改善に加え、証券代行・法人与信関連の手数料が好調に推移したことで手数料関連利益が増益となったことから、前年同期比123億円増益の1,819億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比384億円増益の1,713億円となり、上期としては過去最高益を更新しました。これは、実質業務純益が堅調に推移したことと加え、与信関係費用の改善や関係会社株式の売却に伴い特別利益を計上したことによるものです。

このような堅調な上期の実績を踏まえ、通期の親会社株主純利益を、期初予想比150億円増益となる2,950億円へと上方修正いたしました。また、通期の普通株式配当金の予想についても、期初予想比10円増配となる、1株あたり170円へと見直しを行っております。前年度比では、15円の増配となります(2025年11月12日時点)。最新の情報は当社ウェブサイト(右記二次元コード)をご覧ください。

なお、2025年5月に続き今年度2度目となる、300億円を上限する自己株式取得の実施を公表いたしました。

(\*) 「資金関連利益」に「その他の利益」に含まれる外貨余資運用益を含めています。



最新の情報はこちらから→

### 株主還元方針

一株当たり配当金は累進的としつつ、利益成長を通じた増加を目指します。連結配当性向40%以上を目安に決定します。

なお、自己株式取得については、資本十分性の確保を前提として、中長期的な利益成長に向けた資本活用と、資本効率性の改善効果とのバランスを踏まえつつ、機動的に実施いたします。

### 3. 中期経営計画の進捗について

現中期経営計画の最終年度となる2025年度は、計画の総仕上げと次期中期経営計画への橋渡しの期間として、当グループの社会的使命である「資金・資産・資本の好循環」を実現するための取り組みを進めています。業績の堅調な推移に加え、株式市場の追い風もあり、PBRや時価総額は2030年のありたい姿<sup>(※1)</sup>として掲げている水準に概ね到達しています（2025年9月末基準）。

当グループの強みである資産運用ビジネスの高度化に向けては、2025年10月に三井住友信託銀行のプライベートアセット領域におけるゲートキーパー<sup>(※2)</sup>機能を分割し、三井住友トラスト・インベストメントに統合しました。グローバルなプライベートアセットを取り扱う運用会社として、広く認知されるブランディングを実現し、アジア最大級のプライベートアセット運用会社としての地位を確立していきます。

当グループの中核運用子会社であるアモーヴァ・アセットマネジメントは、2025年9月に日興アセットマネジメントから社名を変更しました。世界11か国の独自のネットワークと約30の国籍から成る多様性に富んだチームを有する特徴を活かし、グローバルビジネスの更なる成長を目指します。

好循環の創出による日本経済の持続的な成長の実現に向け、国内のインフラストラクチャー領域を専門に投資助言を行うジャパン・エクステンシブ・

(※1) 2030年のありたい姿

（定量基準）ROE：中長期10%以上、純利益：3,000億円以上、AUF：800兆円、PBR：早期に1倍以上（時価総額3兆円以上）

(※2) 主に、信託契約等に基づく運用業務として、国内外のファンド選定、モニタリング、レポートティング等の提供を行うこと

(※3) 株式会社日本経済新聞社と株式会社電通が主宰し、公益財団法人 Well-being for Planet Earthおよび有志の企業や有識者・団体等と連携し2021年3月に立ち上げた企業コンソーシアム

インフラストラクチャー株式会社では、2025年10月に三井住友信託銀行と協働で、国内の幅広いインフラ事業等を投資対象とする国内総合型インフラファンド第二号を組成しました。2023年9月に設立した第一号ファンドでは、日本を代表する機関投資家のお客さまから、想定を上回る総額330億円の出資をいただきました。第二号ファンドでは、投資家として新たに企業年金基金にも参画いただき、今後1年間で、国内インフラに投資するファンドでは最大級となる総額約1,200億円の募集に挑戦します。

また、当社は、2025年6月の株主総会での承認を経て、取締役会における独立社外取締役の人数を過半（61.5%）とし、女性取締役の比率も23.0%へと引き上げ、コーポレートガバナンスのさらなる強化を図りました。引き続き経営の専門性と多様性を高めながら、持続的な成長と中長期的な企業価値向上につなげてまいります。

このような取り組みに加えて、当グループでは、2025年10月にWell-being Initiative<sup>(※3)</sup>の参画企業と共同で、SDGsの次なる国際アジェンダ候補として2030年以降を見据えたビジョンである「SWGs (Sustainable Well-being Goals) 宣言」を発表しました。「全てのステークホルダーのウェルビーイング向上に貢献する」というミッションのもと、信託の力で人・社会・地球の調和による持続可能なウェルビーイングの未来をひらいていきます。

## 4. 今後の取り組みについて

「資金・資産・資本の好循環」の実現に向け、プライベートアセット戦略などの成長領域を軸に、デジタルアセットをはじめとした新たな領域におけるビジネス開拓にも取り組み、質の高い成長の実現により全てのステークホルダーの期待に応えてまいります。

三井住友信託銀行では、2024年に取り扱いを開始した元本補填付きの新型金銭信託くフューチャートラスト>に続き、プライベートアセットを組み入れた実績配当型合同運用金銭信託などの新たな投資商品の開発を進めています。投資家にとって利のある多様な投資機会を創出することで、個人投資家のプライベートアセット投資への関心を高め、「プライベートアセットの民主化」の実現を目指します。

資本の効率活用に関しては、政策保有株式の売却に加え、北米貨車リース事業の売却などで得た投資余力をもとに、未来に適合する事業ポートフォリオへの転換を図ります。

三井住友信託銀行では、2025年7月に三井物産デジタルアセットマネジメント株式会社と共同で、デジタル証券特化型の信託会社「オルタナ信託」を設立しました。初年度は1,000億円規模のデジタル

証券の組成を目標に、デジタル証券市場の更なる拡大を目指します。

住信SBIネット銀行は、2025年10月に株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）の連結子会社となり、サービスブランドを新たに「d NEOBANK」に変更しました。三井住友信託銀行とドコモは共同経営パートナーとして住信SBIネット銀行の更なる企業価値向上に取り組むとともに、両社の提携関係を深め、新たな金融サービスの提供等も検討していく予定です。

人的資本の観点では、2025年度から三井住友信託銀行において、新たな人事制度の運用を開始しました。新制度では、社員の自律的なキャリア形成を後押しし、性別や年齢に関わらず、多様な人材が自身の「ウィル（意思）」と「スキル」に基づいて挑戦し、活躍できる環境を整えています。企業と社員が選び選ばれ、企業価値向上と自己成長・自己実現を共通のベクトル上で実現していくことをを目指します。今後も、専門性を有する多様な人材が、それぞれの強みを結集し、相互に高め合いながら、お客さまと社会への新たな価値を提供し続けられるよう、人的資本戦略を一層推進します。

### 【コラム】投資インフルエンサーとの対談動画

当グループのビジネスモデルや成長戦略を、投資インフルエンサー「妄想する決算」氏との対談を通じて、分かりやすくご紹介した動画です。ぜひご覧ください。

「三井住友トラストグループが描く新たな成長ストーリー | スバリ質問！あの企業の○○」



スマートフォンなどでこちらの二次元コードを読み取ることでご視聴いただけます。

<本編>



<ショート動画>



\*日興アイ・アール株式会社運営のYouTubeチャンネル「ディスカ場 Powered by 日興アイ・アール」へ移動します。

# 業績ハイライト 2025年度中間期決算の概要 (連結)

## 三井住友トラストグループ (連結)

	2024年度中間期	2025年度中間期	増減	通期(予想)
実質業務純益 <sup>※1</sup>	1,695	1,819	+ 123 ①	3,700
実質的な資金関連の損益 <sup>※2</sup>	1,751	1,903	+ 151 ②	
手数料関連利益	2,452	2,541	+ 88 ③	
その他の利益	303	338	+ 34	
総経費 <sup>※1</sup>	△ 2,812	△ 2,963	△ 151	
経常利益	1,830	1,964	+ 134	3,750
親会社株主に帰属する中間純利益	1,328	1,713	+ 384 ④	2,950
与信関係費用	△ 62	27	89 ⑤	△ 200
株式等関係損益	399	398	△ 1	800
自己資本当期純利益率 (自己資本ROE)	8.43%	10.75%	+ 2.32%	
1株当たり中間純利益 (EPS)	184円68銭	242円55銭	+ 57円87銭	

	2025年3月末	2025年9月末	増減
総資産	782,471	826,148	+ 43,677
純資産	31,273	32,942	+ 1,668
1株当たり純資産 (BPS)	4,354円91銭	4,634円91銭	+280円00銭

## 三井住友信託銀行 (単体)

信託財産残高	263兆円	269兆円	+5兆円
--------	-------	-------	------

※1 実質業務純益・総経費は、持分法適用会社の損益等も考慮した社内管理ベースの計数です。

※2 実質的な資金関連の損益は、「資金関連利益」に「その他の利益」に含まれる外貨余資運用益を加算したもので

① 実質業務純益は、実質的な資金関連の損益の改善に加え、手数料関連利益も好調に推移したことから、前年同期比123億円の増益となり、通期予想に沿った進捗となりました (進捗率49%)。

② 円金利上昇に伴い、受与信を中心に収益が改善したことに加え、組合出資関連収益の増加もあったことから、前年同期比151億円の増益となりました。

③ 証券代行・法人与信関連の手数料が好調に推移したため、前年同期比88億円の増益となりました。

④ 上記に加え、関係会社株式の売却に伴い特別利益を計上したことから、前年同期比384億円増益となり、上期としては過去最高益を更新しました。

堅調な上期実績を踏まえ、親会社株主純利益の通期予想を、期初予想から150億円上方修正し、2,950億円へと見直しました。

⑤ 特例引当金の戻入益が新規の費用発生を上回ったことから、前年同期比89億円の増益となりました。

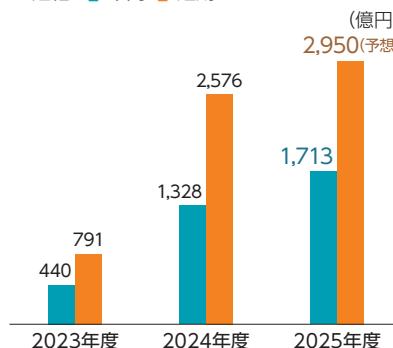
### 実質業務純益

連結 : ■ 中間 ■ 通期



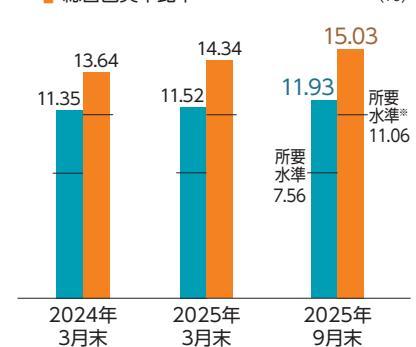
### 親会社株主に帰属する中間 (当期) 純利益

連結 : ■ 中間 ■ 通期



### 自己資本比率等

■ 普通株式等Tier1比率  
■ 総自己資本比率 (%)



2024年4月、三井住友トラストグループが創業100年を迎えたことを機に、当グループではグループへの理解を深め、ステークホルダーへの感謝を再確認するとともに、今後の100年も発展し続ける企業であるために、挑戦する企業文化づくりに向けて様々な取り組みを行っています。今回は特集第4弾として、100周年事業における挑戦に向けた具体的な取り組みを紹介します。



## ワールドカフェの開催

2025年6月、全国のグループ各社から約1,000人の社員が参加するワールドカフェ<sup>※</sup>を開催しました。社員が自身の挑戦アイデアを持ち寄り、磨き上げるとともに、社員の横のつながりを創出することを目的とした、グループ史上初の大規模イベントです。

前半では、三井住友信託銀行 大山社長をはじめとする経営層が登壇し、挑戦の意義や自身の失敗談、挑戦の先に描く未来像について語りました。後半では、社員が会社・部署・年齢の垣根を越えて「私たちの挑戦活動」をテーマに意見を交わし、経営層も各テーブルに加わって直接社員と対話しました。

和やかな雰囲気の中で活発な議論が行われ、挑戦を進めるヒントの発見・共有や、志を同じくする社員同士のネットワークづくりにつながりました。

※カフェのようにリラックスした雰囲気の中でメンバーを変えながら対話し、コミュニケーションを活性化させるイベント



ワールドカフェ集合写真



ワールドカフェの様子

## 2

## 全社員参加型のワークショップ～挑戦する企業文化の醸成～

創業100年を機に、全社員参加型のワークショップを継続的に実施しており、2025年度上期は最終回となる第4回ワークショップを実施しました。

「挑戦アイデアの推進」をテーマに、参加者は会社や事業、社員の挑戦活動を知り、その挑戦が会社や自部署にどのような変化をもたらすことができるかを考えました。「互いが競い高め合う店舗」「多様な社会課題解決に挑む会社」「誰もがチャレンジできる職場」など、社員が考える会社の理想像が多く語られました。

これらの社員の意見やアイデアを次期中期経営計画の策定にも活かし、次の100年も「挑戦と開拓」し続けることを目指していきます。



社員ワークショップの様子

## 3

## Action Challenge Award

100周年事業の締めくくりとして、2025年度下期は社員の挑戦を称える表彰企画、「Action Challenge Award～Move fast, Fail fast, Learn fast～」を実施します。

「挑戦賞」「成長賞」「共感・巻込み賞」の3部門を設け、業務内外を問わず、期間中に成果に至らなかった挑戦や失敗からの学びを含む幅広い取り組みを対象とします。

選考過程で社員による投票も行うことで、会社・社員が挑戦する機運やお互いの挑戦を称える姿勢を共有し、グループ全体で挑戦する文化の醸成を図っていきます。

結果については、次号（2026年6月号）でご紹介する予定です。



# 株主さまとのコミュニケーション広場



## 寄せいただいた皆さまの声にお答えします

前回発行の2025年6月号にて実施しましたアンケートでは、多くの株主の皆さまからご回答をいただき心より感謝を申し上げます。皆さまから頂戴した貴重なご質問の中から、特に多く寄せられた声について、以下のとおりご回答申し上げます。

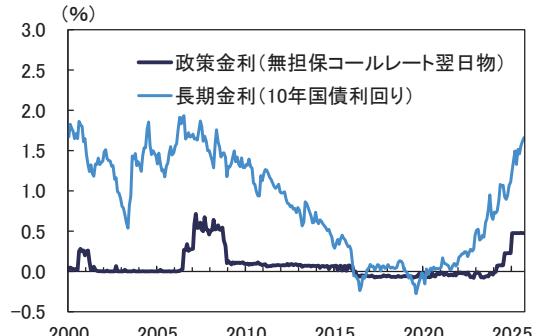


### Q 国内の金利情勢のトレンドと今後注目すべきポイントについて教えてください。

コロナ禍以前は「日本では物価が上がりにくい」と考えられていましたが、最近は人手不足による賃金上昇やサービス価格の上昇を背景に、物価が持続的に上がる兆候が現れ始めました。これに対応する形で、日本銀行は過度な金融緩和を調整するために政策金利を引き上げ、長期金利は上昇基調を示しています。

一般に金利は物価や賃金の動きに加えて、為替や海外の金融政策の影響を受けます。さらに、財政支出の拡大で国債の発行が増加すると、長期金利が上がりやすくなることもあります。

金利の変動は、低金利環境では注目されませんでしたが、住宅ローンの返済額や預金の利息など、私たちの暮らしに密接に関係しています。今後の金利の動向を見る際は、「物価上昇の持続性」「日本銀行の利上げスタンス」「財政拡張策の行方」などに注目することが大切です。



(出所)日本銀行、財務省より三井住友信託銀行調査部作成

### Q 地域貢献への取り組みについて教えてください。

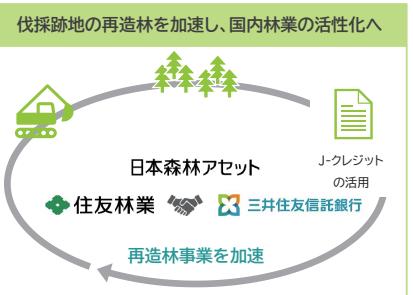
当グループは、地域の社会課題に積極的に取り組むことで、「資金・資産・資本の好循環」を実現させ、地域の持続的成長に貢献する活動を推進しています。

近年、人工林が伐採された後に再造林されず、経済的・環境的価値を十分に發揮できない森林の増加が社会課題として関心を集めています。

三井住友信託銀行は、住友林業株式会社と合弁で「日本森林アセット株式会社」を設立し、再造林されない伐採跡地を取得し、再造林を行い、森林に戻す事業を開始しました。

再造林の推進によって森林資源の再生や二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止など、環境的価値の高い活動を進めています。

2030年までに3,000haの再造林を目指して、東北や九州の森林を中心に、豊かなみどりを長期間にわたり保有・管理しながら、地域活性化に向けた取り組みを推進していきます。



# グループ会社紹介

## 日本カストディ銀行

### 会社概要

日本カストディ銀行は、2020年7月27日にJTCホールディングス、日本トラスティ・サービス信託銀行、資産管理サービス信託銀行の3社が合併して誕生し、今年で設立5周年を迎えました。機関投資家から国内最大級となる約700兆円の金融資産をお預かりする同社は、資産の受入から売買の記録、決済、残高管理、配当金処理、報告書作成までを担うなど、資産管理のプロとして金融インフラを支える重要な役割を果たしています。

また、同社は子育てサポート企業として厚生労働省から特例認定（プラチナくるみん認定）を受けているほか、女性活躍に向けた東京都の取り組みである「東京女性未来フォーラム共同宣言」に参画するなど、多様な価値観を認め合いながら働く職場環境づくりに取り組んでいます。

### 社員の一日を紹介します！



上山 香織

(投資信託第二部  
外投計理課 計理係)

#### 主な業務内容

投資信託ファンドに係る業務（投信基準価額の算出、資金の受入・解約・償還手続き、決算処理等）のうち、外国証券に係る事務を担当しています。20名超の社員全員が女性の組織であり、業務のペーパーレス化を積極的に進め、テレワークを推進するなど、仕事と家庭を両立しやすい環境づくりに力を入れています。



#### 一日のスケジュール

メールチェック・  
朝礼後、担当表を  
ベースに一斉に処理  
スタート。90弱の投信委託会社  
を顧客として業務を開始します。

主に利払調整を担当します。  
毎月1日・15日が大量処理日となっており、0.01の相違や前日との大きな金額乖離がないかなど、外国債券銘柄の注意事項も確認しながらスピード感をもって処理を進めています。

晴海トリトンスクエアにある社員食堂で  
いただきます。とても広く眺めが良いです。  
社員食堂ではクリスマスパーティーなども行われます。

時限の厳しい外国投資勘定照合の処理時間帯まで、課内一丸となって計理事務（約定訂正・仕訳処理・未収利息修正など）に対応するとともに、後輩社員への指導も行います。照合不一致発生時には他課と連携を取り対応します。

翌日の利払調整処理の準備を行い、周囲の協力を得ながら娘のお迎えに出発します。



始業  
(8:50)

午前

お昼

午後

終業  
(15:40)



# 三井住友トラストグループのトピックス

## — グループ会社の取り組み —

### 住信SBIネット銀行

#### NTTドコモの連結子会社化～新サービスブランド「d NEOBANK」を始動～

三井住友信託銀行の持分法適用会社である住信SBIネット銀行は、2025年10月に株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）の連結子会社となり、新たなサービスブランドである「d NEOBANK」を公表しました。ドコモグループの銀行として、ドコモサービスと連携したこれまで以上に便利でおトクな金融サービスを提供し、更なる成長と価値創造に向けた取り組みを推進していきます。

三井住友信託銀行もドコモとともに、共同パートナーとして、デジタルチャネルにおいて異なる強みを持つ住信SBIネット銀行との連携をさらに強め、「三井住友信託NEOBANK」等を通じて、より利便性の高い銀行サービスと専門性の高い信託銀行サービスを一体的に提供することを目指していきます。



### 三井住友トラスト・インベストメント

#### ゲートキーパー機能を分割統合

2025年10月、三井住友信託銀行は、資産運用ビジネスの高度化を目的として、プライベートアセット領域（プライベートエクイティ、インフラ、クレジット等）におけるゲートキーパー機能\*を三井住友トラスト・インベストメントに分割統合しました。

世界的な投資拡大が続くプライベートアセット領域では、個人のお客さまも含めた投資家層の広がりやニーズの多様化が進んでいます。本組織再編を通じて、ビジネス体制の高度化、運用力の強化を実現し、運用ビジネスの成長戦略を加速していきます。

\*主に、信託契約等に基づく運用業務として、国内外のファンドの選定、モニタリング、レポートティング等の提供を行うこと



三井住友トラスト・  
インベストメントHP

### 三井住友トラストクラブ

#### 経営統合によるカード事業の戦略的強化

2025年10月、三井住友トラスト・カードと三井住友トラストクラブが経営統合し、新生「三井住友トラストクラブ」が誕生しました。この統合により、当グループ唯一の戦略的カード子会社として顧客基盤が拡充され、市場での競争優位性や収益性の向上を実現し、企業価値を一層強化していきます。

また、統合後はダイナースクラブ、Visa、Mastercard®の3つの国際ブランドを取り扱う体制となります。富裕層向けの様々なサービスを通じて、お客様に「人生を豊かにする」価値を提供していきます。



## アモーヴァ・アセットマネジメント

### 社名変更後、初となる投資信託を設定

日興アセットマネジメントは2025年9月にアモーヴァ・アセットマネジメントに社名変更しました。

社名変更後、初めての設定となる「スマート・ファイブ（年3.6%目標分配プラス・奇数月決算型）」（11月設定）はリタイアメント層の「使う」に焦点をあてた投資信託であり、12月から三井住友信託銀行でも取り扱いが始まります。キャッチコピー「使うためにこそ、築いてきたお金だから。」にあるとおり、リタイアメント層の資産形成の出口戦略に資する投資信託として期待が集まります。



使うためにこそ、築いてきたお金だから。



## 三井住友トラスト・アセットマネジメント

### 情報誌『アセットマネジメント業界の研究』への制作協力

三井住友トラスト・アセットマネジメントを含む運用会社4社が全面協力した情報誌『アセットマネジメント業界の研究』が、2025年6月18日、東洋経済新報社から刊行されました。

本書では、運用会社の役割や投資信託の仕組み、現役社員による業界の実態などを分かりやすく紹介しています。さらに、岸田文雄元首相や油布志行金融庁企画市場局長（当時）の特別インタビューも収録されており、アセットマネジメント業界への理解を深めたい方におすすめの一冊です。



## 三井住友トラスト・システム&サービス

### シニア向け無料スマホ教室を開催

三井住友トラスト・システム&サービスでは、本社を置く東京都府中市に所属するシニアの方々を対象に、「シニア向け無料スマホ教室」を定期的に開催しています。

講師がマンツーマンで受講者の希望に沿ってスマホ操作をお伝えした他、おすすめ機能やアプリをご紹介しました。受講者の皆さまからは「スマホ操作の悩みが解決し、趣味などの歓談を挟みながら楽しい時間を過ごすことができた」と大変ご好評をいただきました。



# 三井住友トラストグループ ～社会課題の解決に向けた取り組み～

当グループでは、パーカス「託された未来をひらく」のもと、未来への挑戦を続け、持続可能な社会の発展に貢献すべく、社会課題の解決に取り組んでいます。

## ■ ボランティア活動「こども園の木製遊具ペンキ塗り」の実施

2025年6月、当グループ社員と家族が、西新宿こども園で木製遊具のペンキ塗りを行いました。日々、多くの子どもたちが遊ぶ木製遊具は、長年の使用で塗装の剥がれが進み、修繕が必要な状態でした。本活動は、同園の要望を受けて、森林保全に取り組む非営利団体と協働で実施したもので、木材の劣化を防ぎ、遊具の安全性を高めることで、地域の子どもたちが安心して遊べる環境づくりに貢献しました。



## ■ ボランティア活動「フードドライブ」の継続実施

当グループでは2025年7月、本社ビルをはじめ全国の拠点や営業店部で、家庭で余った食品を持ち寄り、支援を必要としている方々に届ける活動「フードドライブ」を実施しました。給食がない長期休み中、1日3食をとることができないひとり親家庭の子どもが増えるという調査結果を受けた取り組みです。昨夏・冬に続く3回目の今回は、社員の本取り組みに対する認知と参加の輪がさらに広がり、段ボール186箱分の食品や金銭等を、非営利団体を通じてお届けしました。





## 「東京MINATO CITY国際音楽コンクール&ワークショップ」への特別協賛

当グループは、2024年に設立された「東京MINATO CITY国際音楽コンクール&ワークショップ」において、次世代を担う演奏家の育成・支援に対する理念・主旨に賛同し、第2回の開催となる今年度の「チェロ部門」についても、昨年に引き続き特別協賛を行いました。日本を含む22の国と地域から81名の応募があり、2025年9月の予選では34名の若手演奏家が腕を競い合い、観客を魅了する演奏を披露しました。その後セミファイナルを経て、ファイナリスト3名が、10月2日サントリーホールでオーケストラと共に演奏して協奏曲を演奏しました。

当グループ社員はファイナルで会場支援のボランティアを行うなど、本コンクールの運営を積極的にサポートしました。



**TMCIMC**



©K. Miura

## JBA（日本バスケットボール協会）協賛



### バスケットボール男子・女子U18日本代表選手への金融教育セミナー開催

三井住友信託銀行は、2025年8月21日・22日に、バスケットボール男子・女子U18日本代表選手に対して金融教育セミナーを開催し、トップアスリートとしてのキャリアだけではなく、その先の長い人生を見据え、夢を実現するためのお金との向き合い方について講義を行いました。

講義後には「貴重な経験になりました。お金は人生に不可欠なものだからこそ、うまい話に乗らないなど、トラブルに巻き込まれないように気をつけたいです。」といった感想がありました。



男子U18日本代表チーム



女子U18日本代表チーム

©日本バスケットボール協会



## 三井住友信託銀行 支店紹介

当グループがお客さまにとって一番身近な企業と感じていただけるよう、三井住友信託銀行の支店の特徴や、社員からお客さまへのメッセージをご紹介します。

### 自由が丘支店（東京都）

地域に根差した信頼づくりを大切に、SDGs達成に向けた取り組みを行っています。

自由が丘支店は今年で開店10年目を迎え、開店以来、地域の皆さんとともに歩む活動を行っています。地元イベント「自由が丘女神まつり」や「自由が丘盆踊り大会」への参加や環境美化活動、児童施設への本の寄贈など、SDGsの達成に向けた取り組みを通じて、地域に根差した信頼づくりを大切にしています。



自由が丘盆踊り大会に参加しました

#### 【自由が丘支店担当者から皆さまへメッセージ】

自由が丘支店は、明るく風通しの良い雰囲気の中、スタッフ同士がしっかりと連携しながらお客様をお迎えしています。地域の皆さんとのつながりを大切にし、親しみやすい応対を心がけております。

ぜひお気軽にご来店ください。職員一同、心よりお待ちしております。



「With you支店ブログ」で支店の活動を紹介中

こちらから、地域での活動やイベント情報など取り組み事例がご覧になれます！



#### ご当地イチ押しスポット

##### 熊野神社 - 本殿裏手の松がパワースポット -

自由が丘駅から徒歩3分の場所に位置する神社で、鎌倉時代に信仰の厚い土地の名士たちが西方熊野へ赴き、熊野本宮の御神靈を拝受して祀られたことが由緒と伝えられています。また、本殿の裏手には、黒松（男松）と赤松（女松）が寄り添うように育んでおり、松が夫婦円満の木といわれていることから「夫婦松」と呼ばれる御神木があり、2022年より一般公開されています。



## 会社概要

商号	三井住友トラストグループ株式会社 <英語表記 : Sumitomo Mitsui Trust Group, Inc.>
設立	2002年2月1日
資本金	2,616億872万5,000円 (2025年9月30日現在)
本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 ☎ 03-6256-6000 (代表)
上場証券取引所	東京 (プライム市場)、名古屋 (プレミア市場) 証券コード : 8309

## 株式の状況 (2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,740,000,000株
発行済株式の総数	普通株式 705,385,780株
株主数	普通株式 143,624名

## 配当金を「配当金領収証」で受領されている株主さま

配当金を銀行等の預金口座へ入金する手続きをしていただきますと配当金支払開始日に株主さまご指定の口座に振り込まれ、迅速かつ安全・確実に配当金をお受け取りいただくことができます。  
振込手続きをご希望の株主さまは、お取り引きされている証券会社もしくは上記株式についてのご案内に記載の三井住友信託銀行株式会社証券代行部へお申し出ください。

## ウェブサイトのご案内

当社の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



表紙写真：エゾリス（北海道 貞駒内）

## 株式についてのご案内

決算期	3月31日
配当金受領	中間配当金 毎年9月30日
株主確定日	期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。 (電子公告のサイトのURLは、 <a href="https://www.smtg.jp/">https://www.smtg.jp/</a> です) ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株式事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ● 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ● 電話照会先 ☎ 0120-782-031
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人

エゾリスは、北海道の森に生息しており、ふさふさのしっぽが特徴です。眞駒内保健保安林では、自然環境保護の取り組みにより、その姿が見られ、多くの方々に親しまれています。



この製品は、FSC®認証材、  
再生資源、およびその他の  
管理原材料から作られています。